



# 会報 JAMT

JAPANESE ASSOCIATION OF MEDICAL TECHNOLOGISTS

発行所  
 日本臨床衛生検査技師会  
 発行責任者 小崎繁昭  
 編集責任者 蒲池正次、小郷正剛、下田勝二、  
 山城元俊、及川雅寛、谷口薫、  
 高山敦也  
 〒143-0016 東京都大田区大森北4丁目10番7号  
 TEL (03) 3768-4722 FAX (03) 3768-6722  
 ホームページ <http://www.jamt.or.jp>

## 平成 20 年度 地区・都道府県技師会長連絡会議 開催される！

平成 20 年 7 月 12 日(土)午後 2 時より日臨技会館(東京都)において、平成 20 年度地区・都道府県技師会長連絡会議が開催された。当日の主たる議題は、今年度の事業進捗状況に続き、新しい公益法人組織に対する組織整備に関する重要事項であった。平成 19 年度の第 2 回定期総会(平成 20 年 3 月 29 日開催)において提案された、組織制度部提案事項<地区・都道府県技師会への対応—地区技師会および都道府県技師会は当会の組織運営には極めて重要な位置を占める。そのため、綿密な連携を保ち積極的対応をはかることにより、当会事業を反映・周知徹底させる必要がある。これらは、新公益法人制度に向けての重点事項でもあり、地区技師会の「支部として位置づけ」を明瞭<明文化>にし、事業展開をすべく組織強化を図りたい>に基づくものであり、その纏めとなるべきものであったが、当日は各地区・都道府県の意見調整に留まった。

今年度の事業進捗状況は、各事業部から事業展開が報告された。中でも、精度保障事業部から示された精度管理調査並びに当会が強力に推し進めているデータ標準化事業についてのアクションプランは、今後の展開が注目される。

その後、公益認定を見据えた組織整備について、富永副会長から説明があった。冒頭「支部化についてはこの 3 月の総会において了解をいただいております。それについてやはり地区からいろんな問題が出るであろうかと思ひまして、その中でどういふ意見があるかということとをちょっと吸い上げさせていただきました。その内容につきまして今お手元に示しております支部に関する検討内容ということで、そのアンケートから導き出された…」との日臨技としての明確な考えが示され、その質疑に終始した。更に、「…(支部については)その中でどういふような形で盛り込むかということはこれからの作業ですけれども、特に定款の中でうたうことが基本的な本筋であろうと、その中で、諸規定というのが当然枝葉のようについていくというのが事実であります。そういう中で皆様方に特に関係する支部というのはどういう位置づけにされるかということの意味合いを書かせていただいております…」とした。この支部については、行政をはじめとする諸団体は現在の<8 地区>は<日臨技支部>としての認識であり、厚労省の法人調査等においても「地区」という名称は誤解を招くとしている。残るは<会員の認識>(意識改革)に託されることとなる。

出席された地区会長からは「…支部の組織のところちょっと教えていただきたいのですが、現在の地区技師会の運営に対しては協議会として存続させていくが、協議会員数を各支部と横並びとして定数制にすると…この文面のままだと現在とほとんど変わらないというふうなふうな受け取るんですが、どうして支部化するのに地区の協議会を残すのか…」との質問もあった。

「…そうしますと組織が二重構造になる可能性があります。せっかく新公益法人の日臨技の支部として位置づけるのであれば、日臨技の支部として活動をきちんと統一すべきだと思ひ

ます…」とする前向きな発言もあった。

一方、「…今の体制をそのまま温存してうまくやっていたできるように考えております。特に 1 点、支部長の人選というのは基本的に定款が絡んできますので一番ここが大事じゃないかなと、あとの諸規定に関しては基本的には後で総会なり理事会で検証して変更が利くものだと思っております。支部長の取扱いをどうするかということだと僕は理解しているんですけども、まず協議会方式というのを考えた場合、私どもも 7 府県で地区技師会を取っておりまして、多分そういう体制を踏襲する意味で協議会というのを提案されたというふうな思ひます…一つ危惧するのは支部と支部長となる方と、例えば〇〇地区に関しても私ども社団法人を取っておりますので基本的に組織的には日臨技と同格になります…特に定款の支部長というの〇〇の支部長で各府県の例えば協議会の会長といったものがうまく融和できるのか、そこで一つの日臨技もすべて含めての組織活動がうまく円滑に進むのではないかと思ひています…」といった、やや誤解されているかのような発言も見られ、今後の指導力が注目される。

当日出席者の多くは、「日臨技…」と発言されるが、会員全員が日臨技なのであり、執行部からは「…それと一つお願いしたいのが、皆さん地区と日臨技とか支部と日臨技という言い方をしますけれども、支部を含めて全部日臨技です。ですから例えば支部というのは実は実態がないから活動がしにくいというのはおっしゃるとおりだと思います。例えば日臨技が何かの事業を実行する時には都道府県がその担い手になるわけです。それと同じようなことになるのだらうなというふうな思ひます…」との発言もあった。当日、特に、現実味を帯びていたテーマは、予算、助成金等の経済面であった。

いずれにしても、この<支部>の問題は 4~5 年前から「会長会議」で論議されてきたことであり、夫々の理事が交代したための新たな論議は、終着駅のないメリーゴーラウンドのようなものとなる危険性を含んでいることが危惧される。

尚、詳細な議事録は「医学検査、第 9 号」に掲載予定。

P01:平成 20 年度地区・都道府県会長連絡会議開催  
 P02:民による公益の増進を目指して-1  
 P03:同-2  
 P04:医療安全研修会・格差社会の不健康

P05:ひとくち英会話・臨検小話-6<レクチン>  
 P06:百均の電卓で解ける「統計入門」-1  
 P07:同-2・アリストテレス「弁論術」  
 P08:夏休み・編集室